

新型コロナウイルス感染拡大を 受けた防衛省・自衛隊の取組



2020年4月10日
防 衛 省

I. 活動の概要

(1) 武漢からのチャーター機への看護官派遣（1月29、30日）

官庁間協力として、第2便、第3便に自衛隊の看護官2名を派遣

⇒ 機内でのオペレーションが、その後の活動に活きた

(2) 感染拡大防止のための救援に係る災害派遣 （1月31日～3月16日・延べ活動人員約4,900名）

1. 陸上での宿泊施設（※）における支援（1月31日～）

- a. 生活支援（チャーター機での帰国邦人等の支援・クルーズ船からの下船者の支援）
- b. 健康管理支援

（※）税務大学校、厚生労働省保健医療科学院、財務省税関研修所における活動

2. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応（2月6日～）

- a. 医療支援（診察、薬の処方、仕分け等）
- b. 生活支援等（生活物品等の搬入や仕分け）
- c. 船内の共同区画の消毒
（ホール、階段の手すり、エレベーター内ボタン、ドアノブ、その他手に触れる金属部分等）
- d. 下船者の輸送支援

⇒ 感染リスクの高い活動

⇒ 巨大で複雑な客船上での前例のないオペレーション

I. 活動の概要

(3) 現在実施中の災害派遣（3月28日～）（4月7日現在）

1. 水際対策強化に係る災害派遣（3月28日～）

- a. 自衛隊医官等による空港（成田、羽田）における検疫支援（PCR検査のための検体採取）
- b. PCR検査の結果が出るまで宿泊施設に滞在する帰国者・入国者の、
空港（成田、羽田、関空、中部）から宿泊施設への輸送支援
- c. 宿泊施設に滞在する帰国者・入国者への支援（食事の配分等）

2. 患者の空輸に係る災害派遣（長崎県）（4月3日）

3. 市中感染拡大防止のための災害派遣 （宮城県（4月3日～6日）、東京都（4月6日～））

(4) 自衛隊病院等への陽性者の受け入れ

累計221人の陽性者の受け入れ（4月7日現在）

- ⇒ 158名が退院、60名が入院中
3名が他の病院へ転院
- ⇒ 多数の患者を短期間に受け入れ
- ⇒ 17か国・地域に及ぶ多様な国籍の患者の受け入れ
- ⇒ 短期間で症例分析レポートを公表



II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

(1) 概要

- ・ 約3,700名の乗船者のうち約2,800名に対して支援
- ・ 延べ活動人数約2,700名（対特殊武器衛生隊を含む）のうち **自衛隊の感染者ゼロ**
- ・ 外国人乗客等を対象とした輸送支援
（米・豪・NZ・イスラエル・加・伊（EU諸国の乗客等含む）・英・比・印・尼）

	期間	延べ活動人数
医療支援	2月7日～26日	約700名
生活支援	2月9日～3月1日	約1,300名
下船者の輸送支援	2月14日～3月1日	約300名
統合現地調整所	2月6日～3月1日	約400名



下船支援の状況



II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

(2) 隊員に感染者を出さなかった要因

1. 基本の徹底

a. 作業後こまめに手指消毒することの重要性



手指消毒の方法

日本環境感染学会
教育ツールVer.3.2より引用

II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

(2) 隊員に感染者を出さなかった要因

1. 基本の徹底

- b. マスクの付け方・外し方の徹底、1つの作業（1～2時間）ごとに交換

付け方：手で鼻の部分を抑えて、隙間を作らない

外し方：紐だけを触り、ウイルスが付着している可能性がある表面に触らない



マスクを手で抑える

- c. 1日の任務後、洗濯を実施するにあたって、

感染のリスクが高い隊員：「はくおう」の個室の風呂場や小型洗濯機を使用し個別に洗濯

感染のリスクが低い隊員：「はくおう」船内に据え付けた洗濯機を共有し洗濯

II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

(2) 隊員に感染者を出さなかった要因

2. 防護の徹底

- a. 自衛隊独自の高い防護基準を適用（その上で二重の手袋とテープを使用）
（次スライドを参照）
- b. 二人一組での行動
（脱着作業・帽子が髪の毛をカバーしているか、隙間が無いことの確認）



防護服の脱着作業



防護教育

II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

派遣隊員の防護基準

業務内容	活動状況 イメージ	対象 との 接触	防護装備（オレンジ色ハッチング部分） （○：一般的な基準※1、✓：防衛省追加基準）					
			タイベック スーツ (セット)	ヘア キャップ	マスク 又は N95マスク	ガウン	フェイスシールド 又は ゴーグル	プラスチック 手袋
DP内での 消毒等作業		有	✓※2		○			○
診療、薬剤 配布等		有			○	○	○	○
薬剤仕分け等		無		✓	○	✓		✓
PCR陽性 患者の搬送		有	✓※2		○	○		○

※1：帰還者の宿泊施設における感染防御策や生活上の感染対策の考え方について

※2：N95マスク、ゴーグル、インナー手袋、アウター手袋、防護服本体、シューズカバーで構成される

2. 防護の徹底

1 消毒する

2 アウター手袋(グリーン)を脱す

3 防護服を脱ぐ

4 防護服を脱ぐ

5 ゴーグルを脱す

6 マスクを脱す

7 最後にインナー手袋を脱す

8 完了

アゼアス株式会社
感染症防護対策キット説明書より引用

II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応

(2) 隊員に感染者を出さなかった要因

3. 3食の食事と休養・免疫力向上の重要性

- ・栄養ある食事を3食とり、休憩時間や睡眠時間を十分に確保することで、心身の健康を維持

4. 活動拠点として民間フェリー（はくおう、シルバークイーン）を活用

- 大がかりなロジ準備と支援
- 感染のリスクに応じて動線を分けること（次スライドを参照）
- 活動終了後、隊員自身の14日間の経過観察期間中停留施設として利用

栄養十分な食事



弁当のメニュー例

- ・白米
- ・主菜（魚介と野菜の炒め物）
- ・副菜（メンチカツ）
- ・野菜
- ・スープ
- ・野菜ジュース



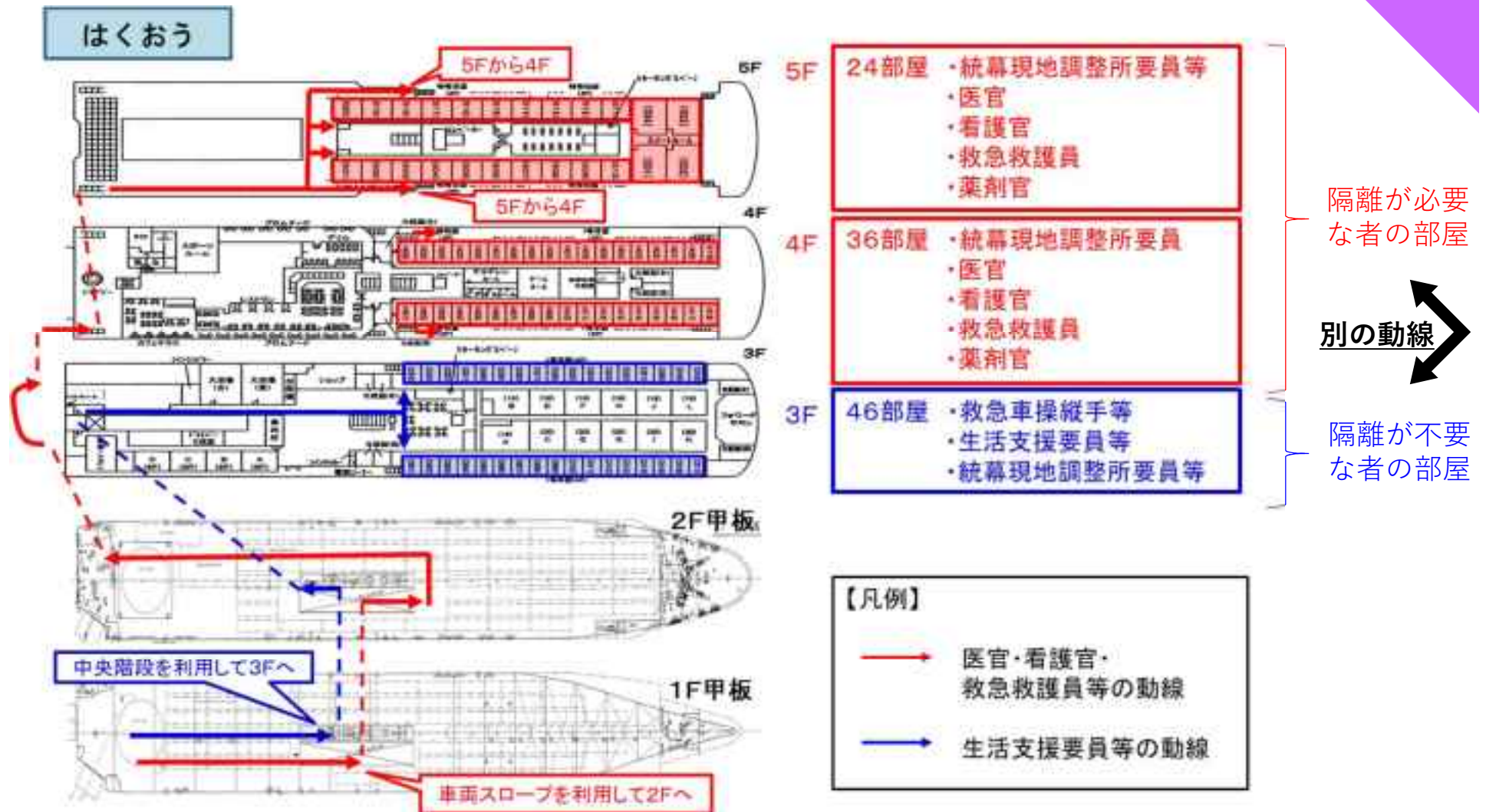
弁当のメニュー例

- ・白米
- ・主菜（唐揚げとコロケ）
- ・副菜（野菜の煮物）
- ・野菜
- ・味噌汁
- ・ヨーグルト



はくおう

II. クルーズ船「ダイヤモンド・プリンセス号」への対応



感染のリスクを低減させるため、

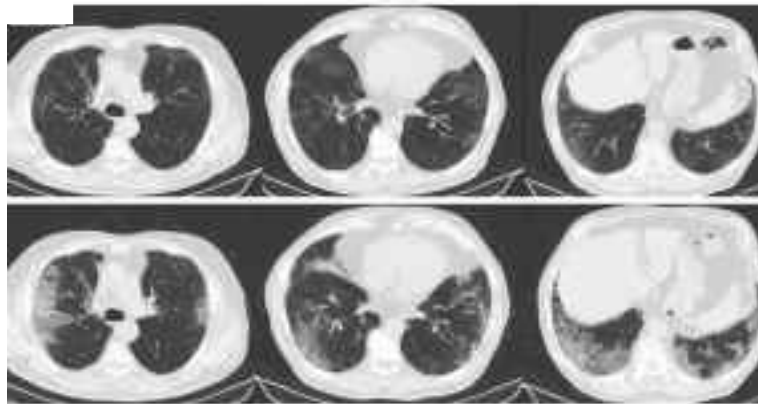
- はくおう 4、5 Fを隔離が必要なものが入る部屋として指定し、2階車両甲板から後部の外階段を使用して昇降
- 他の隊員等は3 F、シルバークイーン等を指定し、その他の階段を使用

III. 自衛隊中央病院での症例からの分析

- ・ 国内最多規模の感染者を受け入れ
- ・ 患者 104 名の症状に基づく分析結果を関係者全員の同意に基づき速やかに発表（3月19日）
- ・ **病院関係者の二次感染はなし**

（1）CT 検査の有効性

- 無症状陽性者であってもCT検査で約半数に肺に異常が認められた
- PCRが陰性となった者について、CT検査で異常が認められたケースについては、繰り返しPCRを実施すると陽性となる症例もあった



肺炎が憎悪した例（上段→下段）



PCR 陽性、自覚症状なし、CT 上肺炎像
→Silent Pneumonia

III. 自衛隊中央病院での症例からの分析

(2) 徹底した予防感染策

- a. ゾーニング、接触感染予防、飛沫感染予防等
- b. 第一種感染症指定医療機関としての感染患者受入れ訓練からのノウハウ活用
- c. 首都直下型地震等を想定した大量傷者受入れ訓練からのノウハウ活用

(3) 外国国籍患者への配慮

- a. 患者や各国の在京大使館とのコミュニケーションのための通訳
- b. 本国との連絡や母国語での情報収集を可能とするためのwifiルーター設置
- c. 病院食の工夫



ゾーニング



防護服の着用



病室の様子

IV. まとめ



- 助ける側が助けられてはならないため、災害派遣隊員から感染者を一人も出さないことを重視せよとの大臣指示の下、派遣隊員から一人も感染者を出さずに任務を完遂。
- 1人1人が基本動作を忠実に、徹底的に、実施することが最重要。
- 現在実施中のオペレーションでも同様の目標を掲げ活動中。